

寿都・島牧・黒松内 南後志に生きる

五十三人が語る個人史と町・北海道・日本の歴史

山本竜也

約1年間にわたって、この3町村に縁をもつ60歳から98歳の人たちに会い、それぞれの歴史を訊いた。

皆の口からは、さまざまな話題が飛びだした。

戊辰戦争の折に、箱館で新政府軍が幕府軍の残党を探しているのを祖母が見たという人があれば、その戦争に敗れたのち開拓に入った会津藩士の子孫という人もある。ニシンに惹かれてやってきた先祖を持つ人は多いが、漁師をつづけた子孫ばかりでなく、漁で得た金をもとに内陸に土地を買ったため、農家になった子孫もいる。ひと昔前は仕事に馬を使っていたんだと話す人も多い。それもはじめはドサンコの背に荷をくくりつけていたが、道路の改良ともなつて、ばん馬が活躍するようになった。

また、先の大戦には、どの人も翻弄された。徴兵検査・出征・初年兵いじめ・空襲・原爆・軍事教練・援農・勤労動員・引き揚げ・シベリア抑留・集団帰農・食料不足・買い出しなど、あらゆる体験談が聞けた。

一方、戦後になると、東京オリンピックや有線放送・映画・テレビ・自動車・保育園・労働組合といった話題が出てくる。昨今の郵政民営化に大きくかわつた人もいる。機械化・グローバル化にもなつて、離農した人もめだつ。海の世界でも、船も漁法も様変わりした。獲れる魚も変わった。ニシンが消え、マグロが消え、ホッケが漁獲の中心となった。ホタテやカキなどの養殖を手がけた人もいる。

この地に生まれ歳をかさねた人、移住してきた人、都会へ出ていった人など、53人の歴史をこの本にまとめた。ちいさな地域であっても、多種多様な物語が集まった。(「はじめに」より)

2016年(平成28)6月発刊。
A5版610ページ(44万字)。モノクロ印刷。
本体価格:2000円+税
ISBN:978-4-9908542-6-3

取扱店:

- ・道の駅「みなとま〜れ寿都」(寿都町)
- ・くどう書店(寿都町)
- ・田中電機商会(寿都町)
- ・ペンションメロー(寿都町)
- ・NPO法人ひまわり(黒松内町)
- ・道の駅「くろまつない トワ・ヴェール・ドゥー」(黒松内町)
- ・歌才自然の家(黒松内町)
- ・黒松内温泉ぶなの森(黒松内町)
- ・北海道オプションルーツ「ほっとバス」(札幌市中央区北2西2 札幌2・2ビル1階)
- ・紀伊國屋書店札幌本店(札幌駅前)
- ・三省堂書店札幌店(札幌ステラプレイス5階)
- ・通販サイト「Amazon」

著者への直接申し込みも承ります。

連絡先:minamisiribesi@hotmail.co.jp



南後志 一寿都・島牧・黒松内一 に生きる 五十三人が語る個人史と町・北海道・日本の歴史

目次

はじめに

おもな出来事

寿都町・島牧村・黒松内町の人口変遷

第1章 エン麦・亜麻から米、そしてアスパラへ

第2章 歌棄村助役の父が寿都で事故死

第3章 寿都鉄道に轢かれ父が亡くなる

第4章 カフェや純喫茶を経営した父母

第5章 浅海漁業と商店経営を両立する

第6章 寿都初の保健婦・養護教諭として

第7章 磯谷村の旅館に生まれ、看護婦に

第8章 たくあん工場の工場長

第9章 祖父・父から受け継いだ寿都の資料

第10章 寿都鉄道から南満州鉄道へ

第11章 本屋の娘が有線放送のアナウンサーに

第12章 寿都さいごの船大工

第13章 磯谷カクジュウ佐藤家に生まれて

第14章 大金鉱山、馬車追い、酪農家

第15章 さいごの映写技師と寿都に行く

第16章 幻に終わった長芋御殿

第17章 島牧村民のテレビ視聴を実現した

第18章 寿都の炭焼きから島牧の山菜屋へ

第19章 レスリングにかけた青春

第20章 マルホン小西漁業を支えてきた

第21章 勉強したくとも学校に行けなかった

第22章 鉄道労組委員長からハイヤー社長へ

第23章 ブリの借金を水産加工で返済する

第24章 湯別一の開拓農家に生まれて

第25章 美谷から歌島までの道路をつくった

第26章 珪肺で亡くなった寿都鉱山長

第27章 台湾から引き揚げ、保育園をつくる

第28章 国鉄から潜水艦乗りへ

第29章 出稼ぎ漁師から専業漁師へ

第30章 道内はもちろん樺太まで出稼ぎへ

第31章 親子4代の漁師 ニシンからカワハギへ

第32章 弁慶岬でばん馬を育てる

第33章 Uターンしてペンションを開業

第34章 漁がすっかり変わってしまった

第35章 馬・牛1頭、畑3反をもらって分家

第36章 半世紀近くも勤めた郵便局

第37章 引き揚げ船・密航船で、樺太から北海道へ

第38章 歌棄村種前に生まれ、樺太・満州へ

第39章 アワビやウニがいくらでも獲れた

第40章 荒廃する東京を逃れ、作開の開拓へ

第41章 名前も知らなかった町に来た

第42章 寿都から京都・函館・札幌へ

第43章 山から見えた鮫取澗が私の原風景です

第44章 故郷が懐かしくなり、寿都に帰る

第45章 馬鈴薯を育て、牛を飼う

第46章 作開に入殖した会津藩士

第47章 シベリア抑留から帰り、寿都鉄道へ

第48章 4町村で映画を上映してまわる

第49章 蒸気機関車にあこがれ国鉄機関士に

第50章 数頭の牛がいれば食っていった

おわりに

付録『寿都五十話』訂正一覧



山本 竜也
(やまもと・たつや)

稿。雑誌『和』(2015年、共著)に毎号寄稿。『写真アルバム』(2014年)、『人々の記憶』(2014年)、『話』(2012年)、『襲』(2011年)、『最期』(2011年)、『簿』(2011年)、『著書』(2011年)、『候所に勤務。現在、札幌市に在住。08年(平成20)9月まで寿都測006年(平成18)4月から20東北・北海道各地を移り住む。2年(平成15)に気象庁に入庁後、士課程修了(雪氷学)。2003年に生まれる。北海道大学大学院修士課程修了(雪氷学)。2003年(平成15)に気象庁に入庁後、東北・北海道各地を移り住む。2006年(平成18)4月から2008年(平成20)9月まで寿都測候所に勤務。現在、札幌市に在住。著書に『北海道空襲犠牲者名簿』(2011年)、『東海丸の最期』(2011年)、『襲』(2011年)、『話』(2012年)、『襲』(2011年)、『人々の記憶』(2014年)、『写真アルバム』(2014年)、『和』(2015年、共著)に毎号寄稿。